

(別紙)

## 障害福祉分野のICT導入モデル事業 事業報告書

自治体名

静岡県

### 【基本情報】

フリガナ	トクエイエイカド ウウジン特ホ イ
法人名	特定非営利活動法人いきがい
フリガナ	サダボウル
事業所名	サダボウル
提供サービス（複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択）	
就労継続支援B型	
職員数（常勤換算数）【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出（産休・育休、休職は除く）】	
6人	
ICT機器等導入完了日	令和 7年 3月 10日

※行・列の追加は行わないでください。

### (1) モデル事業の実施以前における当該事業所のICT機器等の導入・活用状況

業務内容	ICT機器等の導入・活用状況
支援記録の作成	部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
職員間の情報伝達・情報共有	部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
請求業務	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
勤怠管理	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
シフト表作成	部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
給与業務	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）

※「業務内容」に応じ、ICT機器等の導入・活用状況を選択してください。

- ①ICT機器等を導入していない（紙のみで対応）
- ②一部、ICT機器等を導入・活用している（紙とICT機器等に対応）
- ③ICT機器等を導入・活用している（全てICT機器等に対応）

### (2) モデル事業実施によるICT機器等の導入状況

ICT機器等の種別	導入目的	製品名	台数	備考
①パソコン	①作業の迅速化	lenovo V15 Gen4	5	
③タブレット	③業務の統合化	lenovo tab M10 Plus(3rd Gen)	2	
②スマートフォン	②情報の共有化	Redmi 12 5g XIG03	8	

※「ICT機器等の種別」については次の中から選択し、その種別ごとに導入目的、製品名、台数等を記載してください。

- ・情報端末等・・・①パソコン、②スマートフォン、③タブレット、④インカム
- ・ソフトウェア・・・⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト、⑥勤怠管理・シフト表作成・人事給与関連業務ソフト
- ・通信環境機器・・・⑦Wi-Fi・ルーター

なお、「⑧その他」を選択した場合には、「備考欄」に、ICT機器等の種別を記載してください。

※「導入目的」については、次の中から特に該当する番号を選択してください。

- ①作業の迅速化（支援記録の作成など）
- ②情報の共有化（職員間の情報伝達・情報共有など）
- ③業務の統合化（請求業務、勤怠管理、シフト表作成、給与業務など）
- ④その他

なお、「④その他」を選択した場合には、「備考欄」に、導入目的を記載してください。

(3) モデル事業を活用して改善を図った業務におけるICT機器等の導入前後の業務時間、作成文書量の状況

① ICT機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり業務時間 (D/業務従事者数)	備考
		A.ひと月当たり発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	10人	660件	7,920件	5分	660時間	66時間	
②職員間の情報伝達・情報共有	10人	770件	9,240件	1分	154時間	15時間	
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
		1,430件	17,160件	6分	814時間	#DIV/0!	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。  
 なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A. ひと月当たり発生件数の算出方法

①1日あたり30人ほどの個人記録を記載している。1カ月の稼働日を22日とした（1カ月30日に対して土日の日数を8日として計算。30日-8日で22日）。30人×22日=660件を支援記録の作成を発生件数とした。

②個人のスマートフォンを使用し、職員間の伝達を行っていた。個人のスマートフォンを使用した職員間の情報伝達が1日に平均35件ほど発生していた為、35件×22日=770件とした。

<※2>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

①1件あたり5分の根拠は、30人分の記録を作成するのに150分ほど要していた。総記録時間150分に対してパソコン3台で同時に進めても50分が支援記録の作成に時間がかかると考える。実際には3台のパソコンで交代しながらスタッフが記録を打つ事は効率が悪く、60分以上の時間を支援記録の作成に要していた。

②職員間の情報伝達には従業員の個人のスマートフォンを使用してもらっていた。主にLINEでメッセージや通話を使用していた。1日あたりのメッセージ等の発生量は平均で35件とした。

② ICT機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり業務時間 (D/業務従事者数)	備考
		A.ひと月当たり発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	10人	770件	9,240件	3分	462時間	#VALUE!	
②職員間の情報伝達・情報共有	10人	770件	9,240件	1分	154時間	#VALUE!	
⑦その他	10人	10件	120件	10分	20時間	#VALUE!	利用者に作業内容を伝えたり、研修を行う。
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
		1,550件	18,600件	14分	636時間	#VALUE!	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。  
 なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A. ひと月当たり発生件数の算出方法

①1日あたり35人ほどの個人記録を記載している。1カ月の稼働日を22日とした（1カ月30日に対して土日の日数を8日として計算。30日-8日で22日）35人×22日=770件を支援記録の作成の発生件数であるとした。

②業務用のスマートフォンを支給し、LINEを用いて情報伝達を行ったが、発生件数は変わらなかった為、1日あたり35件とした。35件×22日=770件とした。

③作業内容や研修を動画を用いて行った。屋外においても活用できるため、利用者支援の質が向上したと考える。1カ月約10件程度行った。

<※2>C. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

①支援記録以外にもパソコンを用いた事務仕事があるため、1件当たりの平均処理時間を算出する事は難しいが、概ね1時間強で支援記録を終える事ができるため、1件当たりの平均処理時間を3分とした。また、休んだスタッフやパートスタッフ等との情報共有や記録閲覧もより効率化でき、スタッフ内の情報共有が増し、支援に関して検討できる時間や質が向上したと感じる。②平均処理時間自体は変わらないが、これまで個人のスマートフォンを業務で使用してもらっていた為、ICT導入モデル事業により業務用のスマートフォンを整備できた事により、スタッフに対する負担が減ったと思われる。③1回の使用時間は10分ほどであるとスタッフ内で確認し算出した。

年間業務時間数削減率 (%)

21.9%

※以下のICT機器等導入前・後の作成文書量は、該当する文書がある場合に記載してください。

③ ICT機器等導入前の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
		0ページ
		0ページ
		0ページ
	0ページ	0ページ

④ ICT機器等導入後の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
		0ページ
		0ページ
		0ページ
	0ページ	0ページ

年間作成文書量削減率 (%)

#DIV/0!

(4) ICT機器等の導入効果

① 事業所におけるICT機器等導入の推進方法

ICT機器等導入の担当者を設けた。ICT導入を視野に入れて導入したソフトウェアの会社からソフトウェアの有効活用などのレクチャーを受け、スタッフ内研修を行った。年度が変わり、新入職員などにも事業所内のICT担当者やソフトウェアの会社の担当からICTの活用方法について説明とフォローアップを行いたい。苦労した点としては、導入したICT機器をまだ十分に活用できていないとは思えないところがあげられる。新しいことに対してスタッフの抵抗があるのか、導入してからスタッフが実際に活用するまでに想定よりも時間がかかると感じた。また、特に高齢のスタッフなどは馴染む事に消極的だったり、時間を要すると感じた。導入したICT機器を活用してまだ業務効率化できる点がわからないだけで多々あると感じる。

※事業所において、ICT機器等の導入をどのように進めたか（事業所内の推進体制、外部への相談など）を記載してください。

また、事業所にICT機器等の導入にあたり工夫した点、苦労した点がありましたら、その点も記載してください。

②ICT機器等の導入による業務の変化（複数選択可）

情報端末導入による効果
<input checked="" type="checkbox"/> 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
<input checked="" type="checkbox"/> 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
<input checked="" type="checkbox"/> 3 インカム等の導入により、職員間の情報伝達や職員の移動負担が軽減した。
<input checked="" type="checkbox"/> 4 利用者の情報を一元管理できるようになった。
<input checked="" type="checkbox"/> 5 その他の効果があった。
<input type="checkbox"/> 6 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

ICTが得意なスタッフの役割ができ、スタッフ内で教えたり教えてもらったりといった交流が増えた。

ソフトウェア導入による効果
<input type="checkbox"/> 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
<input type="checkbox"/> 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
<input type="checkbox"/> 3 利用者の情報を一元管理できるようになった。
<input type="checkbox"/> 4 記録業務、情報共有業務、請求業務を一気通貫で行えるようになった。
<input type="checkbox"/> 5 勤怠管理、シフト表作成等の業務を一気通貫で行えるようになった。
<input type="checkbox"/> 6 その他の効果があった。
<input type="checkbox"/> 7 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

③ICT機器等の導入による業務効率化及び職員の業務負担軽減の状況

支援記録を同時に記録を打つ事ができたり、大きな画面で記録の作成、共有や検討ができるようになったため、時間の短縮や身体的負担度合いも軽減したとの声がスタッフからあった。また、写真や動画、実際の場面で支援記録を入力する事が出来るようになり、時間短縮と支援の質を深めるための検討に力がさけるようになったと感じる。個人のスマートフォンを使用してもらっていたので、ようやく事業所で機器を整備できてスタッフの負担を減らす事ができたと感じる。

※ICT機器等の導入により、どのような業務改善ができ、どのような業務効率化が図られたのか、また、職員の業務負担軽減にどのような効果があったのか、具体的に記載してください。

④ICT機器等の導入による業務効率化で確保できた業務時間の活用方法

支援の検討や、事業所が抱える課題を話し合うなど、スタッフ内での話し合う時間、会議の数が増えた。写真や動画で利用者の様子を多くのスタッフが共有できる為、よりチームで考えるという意識が高まったように感じる。

※ICT機器等の導入により、業務効率化で確保できた職員の業務時間について、他のどのような業務に活用できたかなど、具体的に記載してください。

(5) ICT機器等の導入による費用面での効果

ICT機器等の導入による費用の縮減 有

※ICT機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下についても回答をお願いします。

縮減額（円）	額は不明
職員の賃上げ等への充当	有
その他職場環境の改善への充当（※1）	有
サービスの質の向上に係る取組への充当（※2）	有

（※1）「その他職場環境の改善への充当」の内容について、具体的に記載してください。

時間の短縮や業務効率化により、支援の質や量が増えたと感じる。それに伴い、会社の業績が上がり結果としてスタッフの賃上げに充当していると考え。スタッフも出勤したほとんどのスタッフがパソコンを1台使えるようになり、支援記録を入力したり、閲覧したり、他業務を行うことができたりして業務量を上げ、ストレスも軽減したと考える。

（※2）「サービスの質の向上に係る取組への充当」の内容について、具体的に記載してください。

支援の見える化、時間が生まれる事で支援を検討する時間が増えたり、事業所の課題を話し合う会議の時間、回数が増えたと感じる。スタッフ内のコミュニケーションも増え、チーム力も上がったと考える。利用者がいる時間でのICTの活用もあるが、多くが直接支援時間ではない時間での業務効率化や支援検討時間といった部分でICT導入による恩恵が生まれていると感じる。